

東お多福山草原刈り取り管理の4年間の成果と今後の活動の展望

東お多福山草原保全・再生研究会

はじめに

東お多福山には六甲山系で唯一の広大な草原が広がっています。かつては草原生植物が豊かなススキが優占する草原でしたが、管理停止や山火事の減少が原因でネザサの勢力が強くなり、ススキや草原生植物が極端に減少した多様性の低いネザサ草原となっています。

そこで私たちは、生物多様性の保全と環境学習・レクリエーションへの活用の観点から、平成19年秋より、東お多福山草原をかつてのススキ草原に再生するための管理と東お多福山草原の魅力を紹介する活動に取り組んでいます。

保全活動

平成19年秋より平成22年にかけては、最適な管理方法を探るための刈り取り管理実験を行い（約600㎡）、毎年晩秋に地上部植物を刈り取る方法ではススキや草原生植物の被度（植物の葉の量）が緩やかではあるが増加傾向を示すこと、毎年晩秋の地上部植物の刈り取りに加え初年度は夏にネザサを選択的に刈り取る方法ではススキ・草原生植物の被度・種数が大幅に増加するが、3年目にはその増加傾向が頭打ちになることを確認しました（詳しくは「共生のひろば6号」をご覧ください）。

そこで平成23年度からは、再生するススキ草原の面積の拡大を目的として、年1回の刈り取りを行う面積を600㎡から8,000㎡に広げています。今年度は神戸市森林整備事務所のご協力によりハイキング道沿いのネザサの刈り取りも実現しました。またススキの被度、草原生植物の種数・被度の早期回復を図り、種子供給源となる草原生植物の個体群を育成することを目的として、草原生植物の生育状況が良好な既存の実験区では夏のネザサの選択的刈り取りと晩秋の地上部植物を刈り取りの年2回の刈り取りを実施しています。

普及活動

平成22年度に草原再生の重要性を訴えるシンポジウムや刈り取り体験セミナーを神戸県民局とともに開催したことに続き、平成23年度には「秋の植物観察会」「刈り取り体験セミナー（神戸県民局との協働）」を開催しました。また「神戸ふれあいフェスティバル（県主催）」「こうべ森のまつり（神戸市主催）」に活動紹介パネルを展示したほか、研究会の紹介リーフレットを作成するなど、普及活動に力を注ぎました。

さらに東お多福山草原での環境学習の実践に向けて、東お多福山草原の理想像をイラスト化するなどの準備を進めています。

今後の展開

8,000㎡の草原を管理するには現在の研究会の規模や活動頻度では心許ないため、他の団体に協力を呼びかけるとともに、行政との連携も引き続き密にしていく予定です。特に平成23年に成立した生物多様性地域連携促進法のしくみを活用して、東お多福山での草原保全活動を公的なものに位置づけられればと考えています。平成24年度は右表のような活動を予定しておりますので、ぜひご参加いただければ幸いです。

表 平成24年度の活動計画

実施日	活動内容
3月28日	早春の全面刈り
5月16日	春の植生調査および外構部のササ刈り
7月25日	夏の植生調査およびコドラート・外構のササ刈り
10月10日	秋の植生調査および外構のササ刈り
11月28日	晩秋の全面刈り